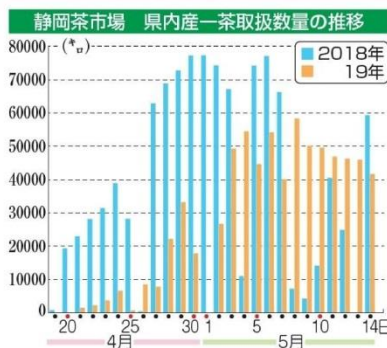




県内産一茶 大幅減産か

静岡茶市場 取扱量伸びず



県内産一茶の取引。数量のまとまりを欠き、相場も振るわなかった＝5月上旬、静岡市葵区の静岡茶市場

2019年
5月15日
朝刊

相場も低迷、生産者打撃

取引終盤を迎えている2019年産の県内産一番茶は前年に比べて大幅な減産になりそうだ。春先の冷え込みなど天候不順に見舞われ、静岡茶市場の12日現在の取扱量は前年同日比39%減の約6万7000^キ。市場への供給量が大幅に減ったにもかかわらず、専門店などの販売不振から相場も振るわず、生産者にとって減産・単価安のダブルパンチとなっている。

「盛期らしいヤマ場め息を漏らす。前年は最高、4月上旬の冷え込みで芽伸びが抑えられ、上場量はまとまりを欠いた。生産を終えた早場所からは「2割の減産で終了した」との声も上がる。初十八夜の新茶商戦は盛況で在庫を抱えた買手が、大口の注文が少なかったと振り返る。単価は過去最低水準だった前年を割り込むとの見方も出ている。

＝関連記事9面へ

現在、県東部や山間部の産地がようやく盛期入りしたが、量がそこまで伸びるかは不透明だ。60代の生産者は「このままでは採算割れ。仲間の茶農家は来年以降も生産を続けるべきかを考え始めている」と危機感を募らせる。

（経済部・牧野めぐみ）

- ① 静岡県出身の医師として、お茶を利用した医療行為のアイデアを創出せよ。
- ② 静岡県産のお茶をグローバル規模にビジネスとして展開するアイデアを創出せよ。
- ③ 静岡県産のお茶を飲む文化を世界に広めるには、どのようにしたら良いか、アイデアを創出せよ。
- ④ お茶の成分が薬品に利用されている例を調べて簡潔にまとめよ。

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石 克巳（静岡県立静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考> 大学入試で出題が想定される学部は、①＝医学部医学科、②＝経済・経営学部、③＝国際関係学部、④＝薬学部